

国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度共通テストは、平成25年度入学生から実施された学習指導要領を踏まえた試験であった。学習指導要領では、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校「国語」において指導する内容の共通性を重視している。

共通テストでは、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することになっており、言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求めることとなっている。

高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。

「内容・範囲」「分量・程度」「表現・形式」の面から、第1問～第4問それぞれに検討を加えて、評価し意見を述べる。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 歴史の理解の仕方や歴史との関わり方について論じた文章である。抽象度の高い文章だが、歴史家の言葉を交えながら順序立てて述べられており、論理的かつ抽象的な文章の内容を的確に読み取る力や、文章の構成や展開の仕方などについて考察する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語・語彙についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 「自分の不在」というキーワードの意味を正しく捉え、傍線部の内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 私たちが歴史の「非対称性」を望んでいる理由について、傍線部直後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 歴史を客観的な立場から観察するということについて書かれている、本文後半の文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 本文全体の文脈から、傍線部の内容を的確に読み取る力を問うている。

問6 (i) 生徒が書いた【文章】を推敲するという学習の場面を通して、本文の内容を踏まえながら表現上の技術や工夫について評価・吟味する力を問うている。

(ii) 本文をもとに【文章】における構成や展開の仕方について考察する力を問うている。

第2問 第二次世界大戦直後の結核の療養施設にて、文芸作品の発表会に向けて準備を進める同室者たちとやりとりをする「僕」の心情を描いた文章である。「僕」の視点を中心に、その内面について丁寧に描写されており、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な語句の意味についての基本的な知識を問うている。

問2 けしからぬと酷評された「かっぱれ」に対する「僕」の心情を、的確に読み取る力を問

うている。

問3 傍線部とその前後の表現に着目して、傍線部に見られる表現上の特徴についての的確に理解する力を問うている。

問4 傍線部に至るまでの「僕」の心情の変化を適切に捉え、「僕」が笑わずに反問した理由について、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 友人宛の手紙という本文の設定を踏まえながら、傍線部における「僕」の心情を的確に読み取る力を問うている。

問6 「僕」が「かっぱれ」にかなわないと感じた理由について、傍線部の前後に書かれている内容を的確に読み取る力を問うている。

問7 (i) 【資料】Ⅰの内容を理解し、その内容を踏まえることで捉え直すことができる「かっぱれ」の行為について、的確に読み取る力を問うている。

(ii) 【資料】Ⅰの内容を踏まえて、本文と【資料】Ⅱのそれぞれにおける文学作品と読者との関係についての「僕」の考えを的確に理解する力を問うている。

第3問 鎌倉時代の『石清水物語』からの出題である。東国の武士である伊予守が異母妹の木幡の姫君に恋い悩む中、父親である関白が準備を進める女二の宮との婚儀に臨む場面を取り上げている。単語の知識や、リード文を参考にして本文を的確に読み取る力、また、他の作品の和歌を資料として本文の内容を理解する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 単語の知識を活用して、文脈に即して内容を的確に理解する力を問うている。

問2 本文の読解に必要な文法の知識を根拠に、登場人物の心情を理解する力を問うている。

問3 1～3段落に書かれている登場人物の言動を的確に読み取る力を問うている。

問4 4・5段落に書かれている内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 (i) 平安時代の『伊勢物語』の和歌を資料とした【学習プリント】をもとに【ノート】を作るという学習の場面を通して、和歌Ⅰの内容を読み取る力を問うている。

(ii) (i)を踏まえて、登場人物の心情を的確に読み取る力を問うている。

第4問 江戸末期の儒学者安積良斎が書いた『洋外紀略』中の伝記「話聖東伝」、及び宋代の儒学者范祖禹の『性理大全』からの出題である。基本的な知識や句法に加え、対話の内容を踏まえて漢文を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な漢字の知識を問うている。

問2 本文の読解に必要な漢字や訓読の決まりについての基本的な知識を活用して、内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 本文を的確に理解するために必要な訓読の決まりや書き下し文についての基本的な知識・技能を問うている。

問4 漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、文脈を的確に読み取る力を問うている。

問5 傍線部の前後の内容を踏まえて、比喩表現を的確に理解する力を問うている。

問6 (i) 【資料】を参考にして、【文章Ⅰ】の内容を深く理解する力を問うている。

(ii) 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を比較して読み、それぞれの内容を的確に読み取る力を問うている。

3 分量・程度

(1) 設問数について

制限時間80分に対して大問は4問で、大問ごとの設問数は第1問が6問、第2問が7問、第3問が5問、第4問が6問であった。全体の解答数は39で、適切であった。(昨年度の共通テスト追

試験：大問ごとの設問数は、第1問と第2問と第4問で各6問ずつ、第3問で5問。全体の解答数は36。）

(2) 難易度について

第1問は、本文及び設問中の【文章】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。問6について、与えられた課題に対して書かれた文章を修正する学習過程を意識した設問であったが、修正のねらいが明示されていなかったことから難易度としては高かった。

第2問は、本文及び設問中の【資料】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。設問の内容に応じて選択肢数に配慮して出題されていた。問7のように、本文の一部に着目し、資料を参考にして文学作品と読者との関係について考察する設問があり、授業にもつながるものとして難易度は適切であった。

第3問は、本文及び【学習プリント】、【ノート】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。基本的な単語や文法の知識を活用して解答する問いに加え、本試験同様、教師と生徒たちの話合いの場面を設定し、和歌の理解を段階的に深めていく設問があり、受験者の日常の学習成果を見る難易度としては適切であった。

第4問は、江戸末期の儒学者安積良斎が書いたアメリカ合衆国初代大統領ワシントンの伝記の、【文章Ⅰ】、宋代の儒学者范祖禹が君主について書いた【文章Ⅱ】、問6の【資料】とも、文章レベル、文章量として妥当であった。漢字の知識を活用して本文の内容を読み解く設問に加え、教師と生徒たちとの会話の場面を意識した設定があり、高等学校における漢文の学習成果を見る難易度としては適切であった。

全体的には、学習指導要領や生徒の学習の過程を意識した場面設定を踏まえており、分量及び難易度は妥当であった。

4 表現・形式

第1問

〔問6〕本文を授業で読んだ生徒が、文章を書く上での技術や工夫について考えたことを【文章】にまとめるという言語活動を重視した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。また、「書くこと」の指導事項にもつながる出題の工夫が見られた。

(i)は、生徒が書いた【文章】の表現をより適切なものに修正する場面を想定した設問であるが、修正のねらいが明示されていないため、何をもって「適切」と判断するのか解答に苦慮した受験者がいたと思われる。言語活動の学習場面を設定する際には、その目的やねらいが明示されるよう配慮いただきたい。また、配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

第2問

〔問7〕教師から提示された【資料】をもとに文学作品と読者との関係について考え、本文の理解を深めていく学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

文学作品と読者との関係について書かれた論理的な文章の内容を踏まえて、本文の叙述を新たに捉え直すという学習の過程を重視した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものであると考えられる。また、配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

第3問

〔問5〕本文の表現について理解を深めるために、教師が用意した【学習プリント】を踏まえて複数の生徒が話合いをし、話し合った結果を【ノート】にまとめるという言語活動を重視

した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

第4問

〔問6〕二つの文章の内容理解を深めるために、教師が用意した【資料】を参考に、教師の支援を受けながら複数の生徒が対話的に学習する言語活動の場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

教師と複数の生徒が対話する学習場面を設定する際には、生徒の気付きや教師の支援によって本文の内容を段階的に読み深めていくものとなるよう検討していただきたい。

5 ま と め（総括的な評価）

知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する問題作成方針に則した良問が、生徒の学習の過程が意識された場面設定の中で出題されたことを評価する。本テストが、高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに妥当な問題として作成され、また、生徒の言語能力を育成する高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

- (1) 「国語総合」の枠の中で学習指導要領に沿った作問がなされていた。第2問における「文学作品と読者との関係について考察する」という学習課題のもと、【資料】を用いて本文の内容を捉え直す学習の場面が設定された設問、第3問における本文の表現について理解を深めるために2段階のステップを踏んで話し合う場面が設定された設問など、学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、工夫された形式で出題されており評価できる。
- (2) いずれの大問においても、本文が比較的平易で適量であり、時間内でテキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりして読み、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。第1問における【文章】を推敲する学習活動に関する設問は、【文章】が書かれた目的や場面の設定が明瞭ではないため、適切な表現に直したり、まとめを加筆する方針を考察したりすることが難しかったと思われる。授業において生徒が学習する場面を設定した設問の作成に際しては、適切な場面設定によって受験者が設問の意図を理解し、解答への道筋を正しく捉えることができるよう、資料の提示の在り方などに一層の工夫が求められる。
- (3) 本テストにおいては、生徒が「どのように学ぶか」を重視していることが感じられるものであった。論理的な文章の内容を踏まえて文学的な文章の表現を捉え直す学習課題、本文の理解を深める目的で段階的に設定された「対話的な学び」、米国の初代大統領を評した日本漢文と君主論に関する漢文について国語総合で習得した基本的な知識・技能を活用して読み、相互に関連付けて内容を理解することを求めた素材文や設問の工夫など、授業改善の視点において大いに示唆に富むものであった。
- (4) 近代以降の文章、古典とも、高校生が読むのにふさわしい多様な題材が用いられている。出題に当たっては、素材文の魅力や価値を十分に生かし、受験者が文章や資料から得た情報を多面的・多角的な視点から解釈する力を発揮することのできる設問が、すべての大問においてバランスよく出題されるよう工夫していただきたい。また、今後も題材として実用的な文章を含めた多様な文章を活用した出題など、高等学校国語科における授業改善を促し、生徒の言語能力の育成に資する出題を期待する。